

今日、私はハンセン病についてくわしく学びました。

ハンセン病は初めは「らい病」と呼ばれ、人々がおそれていた病気でハンセン師が「らい菌」を見つけたため、「ハンセン病」と呼ばれるようになりました。牛嶋さんのお話を聞いて、「ハンセン病」にかかった人は、簡単に養育所から出たり、差別もさほどなくあるというとはできなかったということに私は心が苦しくなりました。今から約100年前にはあったとされる「ハンセン病」、その時から、心をいためつけられ家族も自由など奪われてしまった人が数多くいたということを知りました。本望はしたいことも、できない、たくさん人の権利が奪われました。そして私には、もう一つ心が苦しくなったことがあります。それは、ハンセン病の人にたくさんのお手紙が届いたことです。牛嶋さんが紹介して下さいたお手紙でもほんの一部ですが本当は使っていない言葉がたくさん使われていました。その中で私が一番ひどいと思った言葉があります。その言葉は、「お前らの行く場所はあるのだ。」です。この言葉からも、人としてあつがたのないことと、その人達には、生きている意味がないということを感じていることが分かります。このお手紙以外にもたくさんのお手紙が届いたと思うと、それらを見た人達は、つらい思いや、「私はいない方がいいのかな。」など、後ろ向きな気持ちになってしまったと思います。だから、もうこのようなお話をしたことをしてはいけないと私は思いました。

ぼくは、ハンセン病にかかった人への手紙の言葉が心に残りました。ちょっと悪い言葉や相手を傷つける言葉などが入っていて見ていてちょっと腹が立ちました。その手紙を書いた人は、運がよかただけかもしれないのに、運が悪かた人に悪い手紙を書くとハンセン病の人たちが、いやな思いをもち、家族に迷惑をかけてしまったことをずっと心で引きおろして、死ぬまで落ちこみでいるかもしれないからそんな事はやめた方がいいと思いました。今でも病院みたいな所に入っている人の気もちを考えた方がいいと思います。今でも入っている人はまた差別をされないといけなかつと心配しているのにそういう手紙を送るとよっぽど心配な気もちになるので、ハンセン病にかかった人を安心させる手紙を送りたいと思います。後、バに残ったのはハンセン病が治ったのに病院みたいな所から出してもらえない法律が50年続いたことです。治った人は治ったから安心したのにまだ治っていない人と暮らさなかつといけなかつことになったのがいやだつたと思います。自分は一回ハンセン病になっているから相手の気ちは分かるけれど、やはり明こわかつたと思います。

ハンセン病にかかつてまだ出られてない人は安心して出て来てくれたらいいと思います。

私は、今回の牛嶋さんのお話をきいて、道徳の時間では知ることができなかったことをたくさん知ることができました。このお話で知ったことは、ハンセン病は4000年前からあるということ、ぐすりもできて、治ったことが分かったのに、ホテルにとまるのをきよひされたり、50年もの間「らい予防法」がなくならなくて、病院から出られなかったこと、ハンセン病の患者さんに「死ぬ。」などという手紙がたくさんおくられていたことなどです。それをきいて、私はおどろきました。戦争に勝ちたいからといって、病気をなくそうと法律をつくらせて、ハンセン病の患者さん、家族を差別するのは、ひどい、やるべきでないことだと思いました。最後に牛嶋さんが言っていたように、たれでも、差別する心をもっているけれど、相手(今回だとハンセン病の患者さん)のことを思うことが大切だと思いました。私は苦しんでいた患者さんにあたたかい心で接してあげられる、思いこみにとらわれない優しい人になりたいです。

ぼくはハンセン病問題についてはなにも分からなかったけどこの2時間ぐらいでハンセン病のことがすごく分かりました。必のようなことが分かったかといふと、なおる病気なのになおらない病気がかんちがいをしてかくりをしたりして差別をしていたことがよく分かったし、ハンセン病にかかった人はすごくかなしいと思います。理由は、家族とかからはなされて、かくりしたり、ハンセン病を治す薬ができたのににもかかわらず、一生かくりされているということだからです。ハンセン病にかかってから亡くなった人は体をせりゃれたりされてとてもかなしいと思いますし、国自体が法律を作ることかちょっとおかしいとぼくは感じました。牛山鳥さんの話でもあったけどまだ療養所にいる人が860人いるということにぼくはおどろきました。牛山鳥さんの話で、ホテルを予約して最初はいいよと許可をえたけどホテルに行っ中に入ってからホテルの店員とかかハンセン病にかかっていたからという理由でホテルにとまられてくれなかったり、悪口かがかれている等紙などがきりしていいよくないなと思いました。

ぼくはこれからは病気にかかっている人でも差別ほしいなと思います。

ハンセン病についての学習して分かったことは差別は絶対してはいけない
にかかっていた人
ことです。病院だからといってホテルに入れてもらえなかったり病舎が
はあっていても差別していたり。一番おどろいたのは手紙に書かれていた
ひどい言葉です。「死ぬ、や人間のまねをするな」などとひどい差別を
けてきたんだなと思いました。とくに引かれた言葉があります。人間のまね
をするなのところです。ハンセン病にかかると人としてあつてはいけない病舎
にかかっていた人は何をするにしてもとわりアツけられるのだらうかそこが
おかし
なと思いました。このひどい手紙の数々。このような差別をなくすために私たち
ができることは、まず「ハンセン病の現状」や「ハンセン病について理解するこ
と」話していただきました。差別をなくすためにいろいろとするのはむずかしい
けれど、ハンセン病を理解することにより、少しでも差別が少なくなるなら
今の私にもできます。スーさんがハンセン病について正しく理解してい
けば、差別で苦しむ人もいなくなると思います。なので自分の今できる
ことをして、差別をなくしていきたいと思いました。そして今苦しんでいる
ハンセン病にかかった人、安心してリョウから出れるようになるような環境
をつくらしていきたいです。

あたしは、ハンセン病について話を聞いてこんなひどい
あつかいや差別を受けていたということを知って差別はせ
たにしてはいいかなと思いました。ハンセン病ではかくりさ
まて自由をうばわれた人がたくさんいることを知りまし
た。他にも、わたしが知っていたこと以外に差別があるの
の手紙や電話がたくさんきたりかかっていたということが本当
にゆるせないことだと思いました。ハンセン病にかか
った人たちは自分から精進まで「うば」られたこと
にとてもだけ苦しい思いや悲しい思いだ
たかを知ってあたしはいいめを
するかわかされる側にはせ
らたいいにならないうに
しほうと思いました。その
ために、ふだんの生活でも
言葉づかいや友だちが
いかわることなどをして
しまわないように心がけ
て生活したいです。隣が
いかに病気になる人も
機嫌がいいので特別あ
つかいをしたりするので
はなく「みんなちがって
みんないい」という言
葉のようにつもどら
り言葉を言うときによ
く考えて発げんするこ
とに気をつけようと思
いました。これからも一
人一人のけんりを大切
にするために人権のこ
とをよく考えて生活し
ていきたいと思いました。

ぼくは、ハンセン病問題を学んで差別は
絶対によくないと思いました。ホテルの事件の
ことを聞いた時、本権を無視しているような手紙
を送り来たりして、差別のことを実感しました。
ハンセン病にとっても長い歴史があつておど
ろきました。これに元々は、外国の病気があつた。
こんな国民を苦しめたのにもおどろきまし
た。国の法律で多くの方が苦しんでいるのも、
分かりました。これなのに国は長い時間、法律
を変えずに放置しているのにおどろきました。
もし自分がハンセン病にかかた時に、いじやな
いのかと思います。それからぼくは、これからこの
ようなことがあつた時自分も差別せず、他の
人たちにも、絶対差別はよくないと堂々と言
うようにしておきたいです。もう絶対にこのよう
なことをくり返さないようにしていきたいと思いま
した。

今日、ハンセン病問題について教えて、資料をみる
よりも、とくおしく知れました。たとえば「今も差別が」続い
ていることが、元患者大表の人に送られてきた手紙など
ひどい差別をうけていたのだ"と考えると、こゝちまで悲しくなっ
てきました。そんな差別を受けながら、生療養所の中で
入れられなくなった"と初めて知りました。こんな差別が
今まで続いていると思うとゾッとします。なぜなら、今から
150年前ぐらいにハンセン病が広まったので、あつたなら今だらたら差
別は続かないはずだ"と思ふたからです。をう考えるとハン
セン病はけこころヤバイ病気だ"たのだ"と思います。ほくは、ハンセン
病などに替かかっていた人にも、ふつうの人として、平等に扱
ていきたいです。今日、ハンセン病のことについて、くおしく教えて
くれた、牛山島さんありがとう"ございました。その説明を聞
いていると、もっとハンセン病について知りたくなってきました。
本当に今日はありがとう"ございました。とてもためになりました。

ぼくは 講んで 牛嶋さんのお話をき
いてハンセン病のことがくわしく分かり
ました。ハンセン病はうつらないのに
かくりされたりすることが分かった。とくに
心に残ったのは、ハンセン病になった人にそ
うじやかん者のお世話をしないといけな
いことやハンセン病の薬ができて治った
のに50年間にわたり国がふつうに
暮らすことをゆるさなかつたことです。
生活していても手紙がとどいていじめ
を受けてきたことを知って差別のつらさ
が分かりました。他人事と思っていとこれも
差別です。これから生きていくうえ
で差別をぜったいにしないように
したいです。

私はものすごくいかりを感じました。理由はその生活をしてかかっている悪いあつかりをするのか、私は大それたと思っただけです。しかもいつの生活をしてかからないのか、かかる恐ろしい怖いなどの、諦観心をくぐりやすい予防法、などの意味の無い法律をくり返して病になつて入をたくさん苦しめさせて、ひどいと思ひました。しかも、元ハニセン病にかかるとホテルやホテルでいぼらうらわして傷つけてしまつて、いのかをと思ひました。薬かたで治つても外はだめ、00もだめ、そして差別をする治つても入権をうばつて、最近なことをしても国や国民は正しいと思ひ、見てもあつかりをする。だから私は、とてもいかりを感じました。それでは、いままでの自分があつかりと思ひました。みんなも分かってない、のたしけなしとした気分になつて、うかれてきたからです。牛嶋さんの話はとてもためになつた。私はたいてい(仮)の息になつたんだと思ひました。牛嶋さんのように(仮)じゃない、良い入になつてほしいです。

ほくは、ハンセン病にかかった人は、クダには
いってはおたがさせざるなんてひどいと悪いま
した。なぜなら、なお、たりしてゐる人がいる
のにそれでもかかっていた人がうつるから、
このやう理由で、さうやうせいにいれられたから
さるなんてこと、悪ひどいと悪いでした。ほ
くは、昔、高松の旅館、旅館いって、たしかに
ホテルに予約して、おめはいいよと、お
よかか、ハンセン病にこの前、かかっていたとわ
かることが、おめ、ホテルに入れないとそ
して、手紙で死ぬや、かすや、人間じゃないと書
いておく、てそんなの、と、おめ、ひどい、て、ほ
くは、差別と悪いました。ほく、て、もう、なお、て
いるのに、おめ、かか、か、ホテルに入、った、クダ
又、このやう、なん、て、そんな、の、で、ひどい、て、ほ
く、なら、なお、する、し、せ、た、い、に、補、助、は、い、い、ま、す。
でも、今、も、さう、やう、差別、や、いろいろ、い、じ、め
て、いる、の、で、さう、や、め、て、ほ、こ、い、て、ま、お、ん、な
平、こ、う、に、生、き、ほ、い、て、ま、す。

僕は、ハンセン病の話 を聞いて差別を戸
てはいけな^いら^いと思^ったし、今の自分の生活を見直
てみたいと思^いました。今日、牛嶋さんの話 を
聞いて、感じたことがあります。それは、牛嶋さんが
羽小に来てくれて、ハンセン病のことについて、話し
てくれることは、僕達がこれからの生活で大事な
ことだからだと思^います。最初は、ハンセン病、という
病気は、知らな^から^いだし、その問題なども知りま
せ^なか^った。だけど、前に少し学習したときには、
「人権がうばわれるかもし^れない」と学習したと
きは、そう、思^って、牛嶋さんの話 を聞いたら、
これからの生活に活かしていくことが大事だと、
今日の話 で分かりました。ハンセン病以外にも、
インターネットのいじめや性別などの差別もある
かもし^れないと思^いました。今日、牛嶋さんが
話してくれたことを活かして、これからの学校生活
や友達関係に気をつけて、生活をした^いいです。

ぼくはハンセン病問題について学習して患
牛嶋さんが見せてくれたハンセン病元患
者にあてた手紙は2通だけだったけど

その他にも似たような内容があとひといこ
とを書いてある手紙が数えられないほどさん
と想うとしてもこわいと思いました。

ハンセン病だけでなく病気にかかったら
病院や家でゆくり療養しないといけ
ないのに朝からは薬を試してみよう実験台
のようにされたり昼からは仕事か他の人
の面どうを見ないといけな^{がたり}というのは
病気に^かか^らない人よりも大変なこ
とを^して、罪人や人としてみていな
いというふうにとらえられて、それはおぞ
ましいと思いました。ぼくたちは、病気がうつ

るなどのまちがった知識を使って差別が
いじめなどのもとにならないように、
ちが^ちが^ちとした知識を身につけることが
大切なからハンセン病以外の知識も
身につけたいと思いました。

私はハンセン病についての話を聞いた時に、
手紙が来て、その手紙に先ねとかハンセン病に
かかった人はもう人間じゃないなどと言われて、人間なのに
人間じゃないと言われて、かわいそうだなと思いました。
家族のたれかがハンセン病にかかったらかかて
いない自分も何も悪くないのにいじめられたり、差別を
されたりして、いじめられたり、差別をされたら
家族がいじめられるので「いやだな」と思いました。
何年も前に発見されたのに、今では療養所に入
れられている人がいると聞いて、びっくりしました。
ただ生活しているだけではうつたりしないのにハンセン
病にかかっただけで無理やり療養所に入れられるのが
「いやだな」と思いました。ハンセン病にかかっただけで、
自分の権利を奪われるのが「かわいそうだな」と思
いました。ハンセン病にかかっただけで、苦しい思いを
している人がいるなと思いました。早くいじめや
差別を弱人が受けた人の権利をうけつのも、
やめてほしいです。

私は、ハンセン病問題について学習して今まで知らなかったところを知ることができました。特に、国から予防法を巡って感染者をとりこめていたこと、しょうけきをうけました。理由は、感染してしまった患者たちが悪い人になっていたからです。ハンセン病にかかった人たちは自分がかかっている間も働いたり他の人たちのお世話をしていたりしておかしく思いました。薬ができてもらい予防法がよくなるまでに約50年もあって病気になる人たちは治らないうちにとりこめられたままでしてむじくりしました。今でも療養所からでられない人や今も差別をうけている人がいると分かりました。そして、差別されていたのは患者だけではなくその家族までつらい思いをしていたんだと思いました。らい予防法がまちがひだったと国が認めても国民はまだこわいと思っていたことが差別にもつながったと思います。それからハンセン病にかかった患者がホテルに行こうとするとだめとらたことがみんなに知られてしまったその人たちに対する手紙がたくみとていってとても傷ついていた。自分は関係ないと他人事として考えていることも差別していることなので差別やいじめをされている人、自分が差別やいじめをしないようにするためにどうすればいいかを考えていこうと思いました。患者の願いがかなうまでとても長い年月がかかっていたと思いました。そして今も差別やいろいろなことから療養所からでられない人たちがいるからそのためになにをすればいいのかを考えて行動したいです。

ぼくは、ホテル事件の後の手紙が心に残りました。得に
二つ目の手紙がおかしいと思いました。その人の知^ち識^しが
足りないだけで「○ね」と言^いて人の命をおびや
かすことは自分勝手におかしいです。人権は生
まれながらに持^もっ^ていて糸色文^{いとせぶん}におびやかされ
たり傷^やつけられ^られ^れにはいけ^いない権^{けん}利^りです。この
手紙の如^{ごと}くに「○ね」や「殺^{ころ}す」などのよう^{よう}な言^い葉^はを発^は
しな^らせの中^{なか}を作^{つく}ら^せていき^いたいです。も^もっと人権^{じんけん}に意^い
識^しを向^むけて相^あ手^ての思^しいも考^くえ^てから発^はした方^{かた}が^{いい}と
思^しい^ます。絶^ぜ文^{ぶん}すにあ^あのよう^{よう}な言^い葉^はを発^はし^せせ^せたく^たく^たない^いです。
も^もう一^{いっ}つ心^{こころ}に残^{のこ}った所^{ところ}は、法^は律^{りつ}を作^{つく}り、戦^{せん}争^{そう}を優^{ゆう}先^{せん}
してしま^まった国^{くに}の判^{はん}断^{だん}所^{じょ}につ^づいて^いです。浅^あい考^くえ^て法^は律^{りつ}を作^{つく}り、戦^{せん}
争^{そう}で勝^かつた^ため^めに国^{くに}はハンセン病^{はんぜんびょう}にか^かか^かった人^{ひと}を隔^へ離^り性^{せい}
した^たのは国^{くに}の間^ま違^{ちが}った判^{はん}断^{だん}所^{じょ}だ^だと思^しい^ます。いつで
も国^{くに}の判^{はん}断^{だん}所^{じょ}が正^{ただ}しい^いとは分^わか^から^らない^いので、
何^{なに}が正^{ただ}しい^いのかを考^くえ^ます。

私はハンセン病の学習をしてハンセン病の人がどんな生活をしてきたのか分かりました。ハンセン病は4000年も前からあることにおどろきました。ハンセン病は若い前で体がまひしたりあせがでなくなったりすることが分かりました。牛嶋さんの話を聞いて療養所の中にはハンセン病以外のハンセン病と言っただけで療養所に入れられている人や療養所におはかなどがあることや自分たちでかみ者の人の世話をし医者などがいないことが分かりました。ハンセン病の人は国の法律で薬ができて治っても療養所から出ることができなくて出れるようになるまで50年もかかったということが何でだろうと思いました。何でだろうと思って近くの人と話し合いをして国の人たちがハンセン病について分らないからだと思いました。牛嶋さんが見せてくれたホテルの人たちからももらったハンセン病が治った人たちへの手紙をみてよくないと思いました。よくないと思った理由は手紙に「あの世に行け」や人間としてあつがっていない言葉が彼おれて書かれていたからです。最後に牛嶋さんが見せてくれたハンセン病になった人の話であった。勉強をすることや遊ぶことをしたいです。私はこれからハンセン病の学習をしたことを覚えておいて、ハンセン病みたいにかくりされた人がいたらその人のことを考えてあげたいです。まだ療養所にいる人の気持ちも考えたいと思いました。

元々ハンセン病だった人の元にもどけられた手紙の中で、ポジティブな言葉(支えるような言葉)が入っている手紙は無かったのかな。とも思います。今日見た手紙はけっこう攻撃的な内容でしたが、他の手紙の中にハンセン病にかかったことのある人を支えるような文章が入っているという事を願っています。前にみんなに送られたパンフレットを見て一番心にひびいたのは、熊本地裁判決の日に原告が勝訴の感動を綴った詩です。太陽は輝いた 90年長い長い暗闇の中 一筋の光が走った」と始まる詩です。本当に今まで大変で、つらい思いをしてきていた人がなご体のしんから感じる詩でした。最初の方に、久権って何だろうと考える時間がありました。そこで話し合いをしていた時にぼくは、「人間が生まれながらに持っている権利」とか言っていました。人間らしくという言葉を忘れていました。ぼくの中で一番正確に思ったのは、人間が生まれながらに持つお人、人間が人間らしく生きるための権利でした。ぼくがこの学習が一番大事だと思ったのは、ハンセン病の事を理解した上で、いっしょに生活していく事だと思いました。ぼくは一回ハンセン病にかかっている人・かかってしまった人には、はげますような手紙を送りたいなと思いました。

私はハンセン病の学習をしてハンセン病の人がどんな生活をしてきたのかが分かりました。ハンセン病は4000年も前からあることにおどろきました。ハンセン病は若い前で体がまひしたりあせがでなくなったりすることが分かりました。牛嶋さんの話を聞いて療養所の中にはハンセン病以外の「ハンセ病」と言っただけで療養所に入れられている人や療養所におはかなどがあることや自分たちでかゝ者の人の世話をし医者などがいないことが分かりました。ハンセン病の人は国の法律で薬ができて治っても療養所から出ることができなくて出れるようになるまで50年もかかったということが何でだろうと思いました。何でだろうと思つて近くの人と話し合いをして国の人たちがハンセン病について分らないからだと思いました。牛嶋さんが見せてくれたホテルの人たちからもらったハンセ病が治った人たちへの手紙をみてよくないと思いました。よくないと思つた理由は手紙に「あの世に行け」や人間としてあつていない言葉が使われて書かれていたからです。最後に牛嶋さんが見せてくれたハンセン病になつた人の話しであつた。勉強をすることや遊ぶことをしたいです。私はこれからハンセン病の学習をしたことを覚えておいて、ハンセン病みたいにかくりされた人がいたらその人のことを考えてあげたいです。まだ療養所にいる人の気持ちも考えたいと思いました。

ぼくは、ホテル事件の後の手紙が心に残りました。得に
二つ目の手紙がおかしいと思いました。その人の知^り識が
足りないだけで「○ね」と言、て人の命をおびや
かすことは自分勝手に「おかしい」です。人権は生
まれながらに持、ていて糸色^紙寸におびやかされ
たり傷つけられ^るにはいけ^{ない}権利^{です}。この
手紙の^うに、「○ね」や「殺す」などの^ような言葉^を発
しな^らば世の中を作、ていき^{たい}です。も、と人権^に意
識^を向けて相手の^思いも考^えてから発^{した}方が^{いい}
思^います。糸色^紙寸にあ^のよ^うな言葉^を発^しさせ^{たく}ないです。
もう一つ心に残^{った}所は、法律^を作り、戦争^を優先
して^{しま}った国の判断^{について}です。浅^い考^えで法律^を作り、戦争^で
勝^{つた}ために国はハンセン病^{にか}か^{った}人を隔離^{した}
したのは国の^間違^{った}判断^だと思^います。いつで
も国の判断^が正^{しい}とは分^らない^{ので}、
何^が正^{しい}の^かを考^えます。

私は、ハンセン病問題について学習して今まで知らなかったところまで知ることができました。特に、国がらい予防法をつかって感染者をとじこめていたことについて学びました。理由は、感染してしまった患者たちが悪い人になっていたからです。ハンセン病にかかった人たちは自分がかかっている間も働いたり他の人たちのお世話をしていたりしておかしいと思いました。薬ができてもらい予防法がなくなるまで、約50年もあって病気になる人たちは治るはずととじこめられたままでとてむづかりました。今も療養所からでられない人や今も差別をうけている人がいると分かりました。そして、差別されていたのは、患者だけではなくその家族までつらい思いをしていたらと思いました。らい予防法がまちがひだったと国が認めても国民はまだこわいと思っていたことが差別にもつながったと思います。それからハンセン病にかかった患者がホテルに行こうとするとだめとされたことがみんなに知られてしまったその人たちに対する手紙がたくさんとていとも傷ついていたと思います。自分は関係ないと他人事として考えていることも差別していることなので差別やいじめをされている人、自分が差別やいじめをしないようにするためにどうすればいいかを考えていこうと思いました。患者の願いがかなうまでとて長い年月がかかっていたと思います。そして今も差別やいじめなどから療養所からでられない人たちがいるからそのためになにをすればいいのかを考えて行動したいです。

私は、ハンセン病についての話を聞いた時に、
手紙が来て、その手紙に先ねとかハンセン病に
かかった人はみんな人間じゃないと言われて、人間なのに
人間じゃないと言われて、かわいそうだなと思いました。
家族の誰かがハンセン病にかかったらかかて
いない自分も何も悪くないのに、いじめられたり、差別を
されたりして、いらい自分もハンセン病にかかったら
家族がいじめられるので、いやだなと思いました。
何年も前に発見されたのに、今でもまだ療養所に
入れられている人がいると聞いて、びっくりしました。
ただ生活しているだけでは、うつたりしないのに、ハンセン
病にかかっただけで、無理やり療養所に入れられるのが
いやだなと思いました。ハンセン病にかかっただけで、
自分の権利をうばわれるのが、かわいそうだなと思い
ました。ハンセン病にかかっただけで、苦しい思いを
している人がいるんだなと思いました。早くいじめや
差別をする人がいなくなり、みんなの権利をうばうのを、
やめてほしいです。

ぼくはハンセン病問題について学習して患
牛嶋さんが見せてくれたハンセン病元患
者にあてた手紙は2通だけだったけど

その他にも似たような内容があと多いに
と書いてある手紙が数えられないほど
あると思うこともありました。

ハンセン病だけでなく病気にかかったら
病院や家でゆくり療養しないといけ
ないのに朝からは薬を試してみる実験台
のようにされたり昼からは仕事か他の人
の面どうを見ないといけなかりというのは
病気にかからない人よりも大変なこと
をしていて、罪人や人としてみていな
いというふうにとらえられて、それはおぞ
ましいと思いました。ぼくたちは、病気がうつ
るなどの持ちがった知識を使って差別が
いじめなどのもとにならないように、
ちゃんとした知識を身につけることが
大切なからハンセン病以外の知識も
身につけたいと思いました。

僕は、ハンセン病の話 を聞いて差別をや。
てはいけなしいと思ったし、今の自分の生活を見直し
てみたいと思いました。今日、牛嶋さんの話 を
聞いて、感じたことがあります。それは、牛嶋さんが
羽小に来てくれて、ハンセン病のことについて、話し
てくれることは、僕達がこれからの生活で大事な
ことだからだと思います。最初は、「ハンセン病」とい
う病名は、知らなかったし、その問題なども知りま
せんでした。だけど、前に少し学習したときには、
「人権がうばわれるかもしれないと学習したと
きには、そう、思っ、て、牛嶋さんの話 を聞いたら、
これからの生活に活かしていくことが大事だと、
今日の話 で分かりました。ハンセン病以外にも、
インターネットのいじめや性別などの差別もある
かもしれないと思いました。今日、牛嶋さんが
話してくれたことを活かして、これからの学校生活
や友達関係に気をつけて、生活をしたいです。

ぼくは、ハンセン病にかかった人は、クウヤには
いってほたらかさせぬとてひどいと思いま
した。なぜなら、なおたりしている人がいる
のにそれどもかかっていた人がうつろひか
らぬ理由で、クウヤにこれとばかりか
けるなんて又、悪ひどうと悪い事だ。いま
は、青島さんの病を、僕に知らせた。それ
ホテルに予約して始めはいいよと言ってお
くからハンセン病にこの前、かかっていたとわ
かると、青島さんにホテルに入れないとそ
して、手紙で死ぬか？ かな？ 人間じゃないと書
いておく。てそんなひどいも、ひどい。ぼ
くは、差別とも思いました。だってもうなおして
いるのに、もかかかかかホテルに入らな
い。又、クウヤなんてそんなの、ひどい。ぼ
くは、なお、するし、せめてに、痛みに、かか
ても、今も、クウヤ、差別、か、いろいろ、いじめ
ているので、クウヤ、め、ほしいです。みんな
平、くウヤ、生きてほしいです。

私はハンセン病の問題について学習してハンセン病にかかった人は悪くないのに差別やいじめにあって、しょうよう所から出られないのは人の人権をなくしているのが分りました。

1番おどろいたのは手紙を見た時です。なぜかというところ聞い、じゃないなどの事が書かれていたからです。私はしょうよう所に入、ただけでこんなにひどいことがあるんだと思いました。でもはじめは病気がなおったらしょうよう所から出たいのかなと思っていたけどお話を聞いてしょうよう所からは出たくないということを聞いて本当にひどい差別をうけているんだなと思いました。

私がきもんに思ったのは、かんごしさんも病院の先生もいなくかんじゃさんどうしてだていけるかときもんに思いました。しょうよう所はおせわも仕事もよけいに体をこわすことをするんだらうと思いました。

ぼくはハンセン病のことをまったく知ら
なかったので牛嶋さんのお話を聞いてハン
セン病のせいであつたことがわかりまし
た。強制的に4又容し、療養所から一生出られな
くなるのが一番ダメだと思ひます。その中で
も一生出られなくなるのがダメだと思ひ
ました。ハンセン病になつてせいり心かボ
ロボロなのにおいふ切つらうに手紙があく
られたり偏見や差別をされて自から命をたつ
人むいたとびそつらとをやる人はその人
を殺しているのと同なじだと思ひます。ぼ
くは偏見や差別をしないべらにきおつけま
す。日本をよくしようとしていゝるのに日本
といふ国をけがしていゝると思ひます。偏
見や差別のない日本がいいと思ひます。
牛嶋今日のハンセン病問題についておし
えてくださつてありがたうございました。

私が今日ハンセン病の話で一番仰しょうに残
ているのは薬をのんでなおしているのにしかも国
も人権を大切にしましょう。と言っているのに後い
しょうなどがのこっているからこいてホテルにとめて
れなかつたことです。他のお客さんにめいわくにな
るからとめれないといわれていて私はならなお
しているからいいと思うし後いしょうがあつても
人権を大切にしないといけなからとめてあげ
たらいいと思った。ホテルにとめてあげないのも
ひどいけど、もっとひどいと思ったのは手紙で
す。昔ならインターネットもないから手紙でするけど
わざわざはがきと切っをからすることでもな
いと思つた。それに、その手紙、はがきでたくさんのが
きづくと思つた。内容も、お前らに人権はな
いたとか、まるで人なのに人としてみまらえていな
くて、ひどいと思ひました。今でも差別されてい
たり、りょうに入れられていたり人の目をきにして、
ていない人があつたと思ひました。

私は今回のお話を聞くまで「ハンセン病」という言葉しか知りませんでした。この問題や差別の内容をくわしく聞いてどうしてそんなことが言えるのか分からないようなものすごくおそろしい言葉をハンセン病の患者さんが浴びさらられていて私だけたえられなくなるんじゃないかなと思います。でも今回知った内容だけではなく体調も、と苦しくなるような差別をたくさんあったと思います。その差別を受けたハンセン病の療養所に入れられた人は私たちがはかり知れないぐらいのつらさがあったのだと想像がつかしました。このことを知った上で私はどうしたらいいのかわからないで悩んでいました。その時、私は起ったことをしうかないで終わらせずに次に起らないように考えることが大切だと思いました。今回のお話を聞いて状況を知ったことでこれからの生活に差別が起らないよう相手の気持ちを考えて、という事を大切に言葉だけでなく行動に移すことが出来るようにしたいです。

わたしは、ハンセン病問題について学
習して、知ったことは、今でも、リョウ養所に入
っている人がいることです。国が、法律を作って、
ハンセン病にかかった人は全員、リョウ養所に
入れられていたのを知って、もし、ハンセン病
ではないのに、ハンセン病とまちがえられて、
入れられるというのを想像すると、わたしは、
いやだなと思いました。ハンセン病にかかっ
た人が話している動画は、その人の経歴も、
話していたので、分かりやすかったです。手紙では、
火をきずつけられる言葉がたくさん出てきて、
わたしに言われたら、たぶん、「イヤ」とすると思
いました。例えば、「死ぬ」や「権利はない」など
の言葉です。ハンセン病について話してくれる
前に、勉強したときよりも、もっとぐわしく知る
ことができたのでよかったです。

ハンセン病問題について学習して、長い間 かりされて、本当は病気を
治す場所なのに 介護さんに仕事させたりお年寄りの人と分のぬ
どうを見たりするのはとても 悪いことだと思いました。戦争に勝つ
ためにハンセン病にかかっている人がいた。リョウ養所に入れられるこ
とを知りました。しかも、なくなっても、ふるさとのお墓に入れさせてくれない
人が400人近くいることにおどろきました。今は薬もできて、完全に
治せる病気なのに、なせ50年間もかりしたのだらうと思いました。(日中働か)
せとも苦しかたと思います。強制かりがはい止されても、ホテルに予約
してそのホテルに行き、リョウ養所に入ることがあひはホテルにはとまれない
し、治しているのに、たくさんの悪口がかかれた手紙も送られてくるし、な
せ介護さんは、大変な思いをしていることを知りました。海外は強制かり
をやめようと言ったのに、なせ日本はそのまま強制かりを売けたんだらうと思
いました。でもいまだに人前のような暮らしができない人もいます。差別がト
ラウマになって、リョウ養所から出られない人もいます。今もリョウ養所
に入っている人はいるけれど、仕事はさせられていないので、なせか、たて身前のように家
を真、白にさせられるくらい消毒されたり、家族とはなればなれになったり、仕事
をクビになたりすることが二度とおこらないようにしたいので、なせかして、あんな
手紙を送った人は、介護さんにあやまてほしいです。介護さんには人前
前のような平和な生活を送ってほしいです

今日、ハンセン病についていろいろとおしえてくださり、本当にありがとうございました。ゆがゆが東京にある国立ハンセン病資料館からきていただきありがとうございます。今日の学習でハンセン病についてとてもよく分かりました。今までハンセン病について学校で調べてきましたが、今日の学習でまだ知らなかったことがたくさん分かりました。ハンセン病は、ずっと昔からあってそのハンセン病が今のコロナウイルスのようにはびかってきたときいろいろなことがあったんだなあと分かりました。とくに昔は、らい菌はばれていて、そのらい菌にかんせんして心臓などがばれたら、療養所に入れられたららい菌がなおても、外に出れないのはなぜだろうと思いました。私は、法律で出れなかった、またらい菌がおそれられていたからだと思います。昔は、薬などがなかったのですぐに治らなかったり、療養所がどこと出れないのが苦しかったんだらうなと思いました。今でもハンセン病はあるので、なにかできることはないかと思っています。

今回の牛嶋さんの話を聞いて、ハンセン病に対する意識や知識が大きく変わった。最初はハンセン病、て何か？というところから始。たし、コロナみたいなクラスターを起したのかと思っていました。でもハンセン病は、非常に感染力が弱いことや、その病気がかかると、いろいろの症状がでて感染者をかくりする「療養所」に入所せられる事を知りました。

1時間半ほどかけて多くとした知識を得ることができたのか不安でした。牛嶋さんの話を聞いて、いろいろな情報や感染してしま、た人の思いをしることができました。また、入所者の立場がどれほど苦しい差別やかくり下人生を押しつづされたか、ぼくには分かっていません。でも、その差別やかくりの「痛み」を少しでもしれることができた。ハンセン病の時のようなことを一度とくり返さないためになると思います。僕たち、間は「病者」の人を見ると、そこから遠ざかろうとしたり、自分とされたいやのこをさしてしまう弱、性せが物かと思ひ詰

私は、ハンセン病問題について学習して
昔の人たちは、「自分がよければよい、他人のことは知らない」と思っ
て、変だと思わない、勉強しない、ぼうはん者的な人が多数だったの
かなと思います。そのとき、少しでも変だなと思っ
たら、少しでも勉強していたら、行動にうつ
せて、今のような結果にはならなかったのじや
ないかなと思いました。病院にいる人たちが働
かされていたのはしょうげきの的でした。その人たちに働かせ
る意味が分からなくて、少し、いかりがこみ上げてきました。そし
て、ハンセン病を勉強するということは、こういうことなのかなと思
いました。もっと勉強したいな、ハンセン病について、知りたいな
と思います。ハンセン病にかかってしまった人の話を聞いてみ
て、苦しい毎日だ、たんたなどよく分かりました。次は、こんな
ことが起きないように、私たちの世代が気をつけて行動、発言す
べき番なので、今日のことを生かしたいです。そして、次の世代にも
このことを教えたいです。

今日、ハンセン病問題について勉強して、
昔ハンセン病に感染してしまった人は家族に会
えないし、差別を受けるし、生活を制限さめたり
と本当につらく苦しい生活を送っていました。しか
も、ハンセン病をよく知らないから、思いこみであ
くおそろしい病気だとかんちがいさせ、しせつにか
くりさかせていたので、その時、ほくは思いこみは
こおいなと思いました。そして、文句や口ごたえ
をした患者さんたちは、重かんぼうというろうやに
いまらまたり、草ぬきや木の管理、家しゅうりなどの
仕事をさせられていて、ハンセン病にかかっているだけ
で、いろんな障害た苦しみかかっているのに、その上は
しんごい重労働どうをさせられていたので、それを片
かせていかんたちば一体どうしてそんたにひと
いことをするのたろうと思いました。
こういうことは、人がちゅうしたかぜをひいたたや
で差別をするのといいしよです。なから、けがをし
ていても病気がかかっているも障害をもっているも、差別
をしていい理由はけがたないとい今日の學習で学びま
した。

ほくは、今日の事じま私の話を聞いた人、特にほくは、
に守らなければならぬと思いはした。ハン
セン病というだけでしゅうよう所に入れられ、いつも
の生活をうばわれ、しはんこうしただけで重かん
ほうに人入れられたりしていたのを見て、まるでかん者
というより囚人のような生活を強要されている
な。と感心しました。また、しゅうよう所のことは別の人た
ちがしなければならぬのに、せんとくやに押し入れ、
かん者のしんちつまでをせせていて、とてもひどい
思いました。ほくが、このしゅうよう所に入れられた
ら、多分3日ほどで音をあげると思いますが、
何十年もずくせの中に入れられた人の方が多
くは大きいと思います。なので、まず、人権
をうばわれ、他人たちのため、社会
を変えていく必要が来ると思ひます。そ
して、そのことを伝えるために、おどおど徳島まで来てい
ただ、いなかしかして、あつがしゅうごう
した。

ぼくは、今日のハンセン病問題について
学習してぼくは差別などをしている
人について注意したくなりました。

ハンセン病にかかった人は、家族と
いっしょにいられた事や名前をかえなく
ては、いけないとし、悲しい思いを
している人っているのだなと思いました。

ハンセン病はあついかんせんよしかが強
くないと思つてあついかをぬいている人は
逆にハンセン病にかかるよしかが思はし
た。これはぼくの見解である。

後ぼくは顔や手の形がへんりかしてほう
と聞いてせつたいにうつりたかないし、

ほした。家族とはなればなれになる
の悲しいでもども今は鼻のあついかんせ
んになるよと云うことで身じています。ハ
ンセン病は四十年前に始まり五十年前ハン
センと云う人からい菌を見つけたと云うとい
ました。

牛嶋さん環い所からあついかをいさして
は、あついか
らこつてい
ました。

私は今日牛嶋さんからハンセン病問題についての話を聞いて、総合の時間のときにハンセン病について調べたこと以外にも知ることができました。戦争が終わって日本憲法ができて基本的人権の尊重など人権を大切にすることになったのに、法律を見直さずにハンセン病が完全に治っても療養所から出られなかった理由が国民からの差別やへん見などがあるからだということを知って、ハンセン病についてあまり知らなかったからなんだと私は思いました。

コロナが流行り始めたときもコロナウイルスについて最初は何も知らなくて、怖い病気だとしか思っていなかったのと同じでハンセン病のときも怖い病気だとしか思っていなかったから差別やへん見があったと思います。

私はハンセン病問題について話を聞いて、改めてこういうときに大切なことは逸^{いろはや}早く差別に気づいて自分をコントロールすることだと思いました。

「ぼくは「ハンセン病問題」について学習して、「ハンセン病問題」をして国がまちがうことがあったことにおどろきました。

ハンセン病がはやりた当時は、国や国民はきけんな病気だと考えられていて、国は療養所にハンセン病にかかった人をとじこめていました。その中には平沢さんもいて、療養所からぬけたかかった人がたくさんいたと思います。そして薬がつくられたとしても強制隔離がされているのはおかしいと思います。なぜかという社会に出てハンセン病にかかる前と同じような生活がしたいという人や家族との再会をはたしたい人もいたと考えたからです。そして平沢さんのような人たちが社会に出ていきたいと約50年間も必死に国にうたえた療養所の国民はすばらしいなと思いました。ハンセン病はこれからあまりかかっている人に関わりたくない国民もいた中で、言い続けたことが特にすばらしいと思いました。そんな努力があったからこそ「らい予防法」ははじ止になり、強制隔離はなくなったのだらうなと思いました。今回の「ハンセン病問題」の話をきいて、人はまだハンセン病のことについてあまり知らないのにハンセン病にかかった人を差別し、人権をうばっていたということが牛山島さんの話によく分かりました。これから「ハンセン病問題」についてもっとくわしく知ってみたいです。

私は今日、ハンセン病問題について学習して、ハンセン病のことをくわしく知ることができました。

ハンセン病は、手足などの末梢神経が麻痺し、汗が出なくなったり、いたい、熱い、冷たいといった感覚がなくなる、体の一部が変形するなどといったことが起きるということを知ることができました。他にも、らいきんを発見したノルウェーの医師・ハンセン氏の名前を取って、ハンセン病と呼ばれているということも知ることができました。私は、なぜハンセン病と呼ばれているのか気になっていたので知ることができて良かったです。

ハンセン病にかかった人が入らなければいけない、りょう養所の生活の話では、子どもは、仕事や勉強をしないといけなかったり、ハンセン病が治ったとしても、りょう養所で生活をしないといけなかったということも分かりました。

私は今日のハンセン病問題について学習して、これからまた、ハンセン病のような病気が起こっても、自分たちができることを考えて、どんな病気なのかを調べたりしていきたいと思いました。

牛嶋さん今日は、遠いところからわざわざ羽ノ浦小学校に来てくださってありがとうございました。今日教えてくださったことをこれからも生かしていきたいと思っています。

ぼくは、ハンセン病問題について学習して、差別はよくないなと思いました。

ハンセン病にかかった人たちは、毎日、どうゆう日々を過ごしていたのだらうと思いました。どうして病気が治っても外へ出られないのだらう。ハンセン病にかかった人は、肉なつらい思いをさせられたのだらうか。なぜ、ハンセン病についても、と知らうと思わなかったのが不思議に思いました。

牛嶋さんの話を聞いて差別をなくして、って病気についても、と知らうと思いました。

牛嶋さん、今日、羽浦小学校に来てくれてありがとうございます。ぼくも、おとがえはばりたいと思います。

元々ハンセン病だった人の元にとどけられた手紙の中で、ポジティブな言葉(支えるような言葉)が入っている手紙は無かったのかな。とも思います。今日見た手紙は、けいこう功撃的な内容でしたが、他の手紙の中にハンセン病にかかったことのある人を支えるような文章が入っているという事を願っています。前にみなさんに与えられたパンフレットを見て一番心にひびいたのは、熊本地裁判決の日に原告が勝訴の感動を綴った詩です。太陽は輝いた 90年長い長い暗闇の中 一筋の光が走ったと始まる詩です。本当に今まで大変で、つらい思いをしてきていた人だとなと体のしんがら感じる詩でした。最初の方に、久権って何だろうと考える時間がありました。そこで話し合いをしていた時にぼくは、人間が生まれながらに持っている権利」とか記していました。人間らしく」という言葉を忘れていました。ぼくの中で一番正確に思ったのは、人間がれしもが生まれながらに持つ、おひ人間が人間らしく生きるための権利でした。ぼくがこの学習が一番大事だと思ったのは、ハンセン病の事を理解した上で、いっしょに生活していく事だと思いました。ぼくは一回ハンセン病にかかっている人、かかってしまった人に、はげますような手紙を送りたいなと思いました。

今日はくわしくハンセン病について教えていただきたくさん分かったことがあります。その中でも一番心に残った3つはまずなせ薬ができてからもかくりされていたかということです。ハンセン病が治ってからも周りの人からの差別、周りの人のきょうふ心があり、薬ができてからも50年間もの間かくりされていたことが分かりました。2つ目は平沢さんの話が心に残りました。病院なのに、ろうやがあたりしうじょうが軽い人は重い人のめんどうを見たり、草ぬきなどの仕事をさせられたということが心に残りました。3つ目は平沢さんが言っていた、友達と仲良くする、よく遊ぶことを大切にしてほしいと言っていた時に、なぜだろう、当たり前じゃないの?と思ったけど、牛嶋さんの話を聞いている内に、当たり前じゃない人だと心に残りました。今日牛嶋さんに教えてもらったことを次の勉強などに活かしていきたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。

私は今日の牛嶋さんの話を聞いて分かったことは、
今でも療養所があって私たちが住んでいる所から香川県
の療養所が隣近くてその面積がテニスコートより大き
いことにおどろきました。でも、どうして今でもそんなに面
積を大きくしているのか不思議に思ったので調べてみよ
うと思いました。他にも平沢さんのビデオを見ていると、
妻がえて療養所に行ってしまうと一生閉じこめられて
まうのが怖いと私は思ったから、療養所で閉じこめら
れている人は私より何倍も怖い思いをしていると
が分かりました。療養所に行くのがいやと思っても、無
理やりでも行かされて行くのがばれてしまったら差別
を受けるのは苦と苦しいと思っている人がいるとら
うとも分かりました。今日は外国と比べるとルセシ
病にかかると人は多いけど、外国でもルセシ病に
かかる人は少ないことが分かりました。病気について
何も分からないからこそ、かかるとは本人を治
すことが差別をいしてしまうのは残念だと思いました。私
も家族や友達にルセシ病について教えていき
たいです。

今日は、ハンセン病について少しでもくわしくして
よかったです。今でもハンセン病で苦しんでい
る人がいるんだなと思いました。昔、ハンセン病に感
せんした人は、いろいろな所で一生くらしてい
き、一生働かないといけないという事は、疑問に
思いました。なぜ、病人がせせと働かないといけ
ないのか、ハンセン病(病氣)をなおしていくためには、仕事
を休んで休むのが大事だと思います。それに
ハンセン病にかかった人もそうだけど、その家族まで
いじめや差別をせねなくては、いけないだろうと、牛嶋
さんの話を聞く前は、そう思いました。牛嶋さんの話
を聞いて、私がしたいと思ったことは、ハンセン病にかか
ってしまった人々(またはハンセン病にかかっていた家
族)たちに少しでも支援してあげて、いじめや差別
をせない世の中にしていけたらなと思いました。病
人にいじめや差別をしてしまうと、よけい病氣の度
が重たくなってしまうので、なんの病氣もそう
だけど、病人に悪口を言ったり、いじめをしたりするの
は、いけないと思いました。

私は、ハンセン病の学習を通して、感染してしまっただけで、差別を受けている人がいて、治っても差別を受けていることが昔から今までずっと続いていて、それをなくすために、これから取り組んでいかなければいけない、と思いました。いろいろな所で、患者が患者をかんびょうしていることは、とてもひどいことだ、と思うし、よくするためにいろいろな所に入っているのに、働かせて、さらに悪化させてしまうのは、病院としてやっていいことなのか、と思いました。昔の人は、自分が感染してしまうことをおそれて、何かのせいにして、また時代が変わるとその感染者じたいをおそれて差別していたので、ひどいことだな、と思いました。病気を知らないということが、人々の間にかげを作ってしまう差別が起きている。入所者の考^温を政府が受けとめなからたら年間が無駄だったと思います。50年あれば、患者や入所者がきちんと暮らせるように整備することだ、てきたと思うのに、感染者たちの人権を守らないといけないはずの国が、おろそかにしておかしている。そのことが問題である、と思いました。これからは、差別をなくすよう取り組み、病気についてよく知ってから行動するようにしたいです。

ぼくは今日、牛嶋さんにハンセン病
のことを書いてたくさんを知りました。
ハンセン病がはやっていたときは感染し
た人がろうやに入れられたり、差別をされ
たりととてもかわいそうだなと思いました。
そして、その病気が何なのか分かった後
も約50年の間、ろうやに入られていてな
んでそこまでするんだろうと思いました。その
ろうやで亡くなった人もいけど、そこまでしな
くてもいいなかったのかと思いました。
今では完全に治る薬ができたけど後い
ょうとかでまだりょうよう所にいる人は
とてもかわいそうと思いました。ぼくは
今日のハンセン病のことをこれか
らに活かしていこうと思いました。そ
して、こんなことがまたおこらぬよ
うに長生きしたいです。

ぼくはハンセン病の問題について人は、情報がないとパニックになったりしてしまってもどんな病気かわからないのに強制かくりとかをしてしまったのはしょうがないと思います。それにぼくがもしも法津をつくるとしてぼくも同じことをしていたかもしれないです。でもぼくはハンセン病によくきく薬ができたのににもかかわらず強制かくりの法津を消さないのはおかしいと思いました。それになせつハンセン病にかかってくるしんでいるのに家族にもあえないなんでおかしいと思いました。しかもなせつかくり場所に行うやなどがあるのが病人になせつ仕事をさせるのがかえりあからなかつたです。でも今日の話を聞いてたくさん学んだことがありました。まわりの人は情報がないと人をいじめたりすること、次にハンセン病はあまりおそろしい病気ではないことです。これらのことを教えてくれてありがとうございます。ごさいました。

私は今回、ハンセン病について学習して、いろいろなことが分かりました。例えば、ハンセン病にかかると人は学校に来ることができなくなったり仕事をやめさせられたり、かくはれたり差別を受けていたことを知り悲しいなと思いました。なぜなら、日本で、そのようなひどい差別が過去にあつたことが、本当に信じられないくらいに、悲しい思いをしました。私は、このような差別が起ることは許せないのですが、3年ほど前も、同様に、コロナウイルスでも差別が起つていたので、ハンセン病もコロナも同じようなものなのだなと思います。それに、ハンセン病は薬を飲んだら治る病気なのに、もう治しても、ホテルには入れさせず、また差別を受けるままで、「治しても、また差別が続く」と、私はなぜ差別をするのか分かりません。もうすっかり治り、病気は持ていないはずなのに、差別をするのがおかしいと思いました。このまま同じように差別をくり返しては絶対いけません、私はそう思います。なので、私はこれからはどんな理由があつても差別をしない、許さない人になりたいです。私は、また差別をしない自信はありませんが、当時の差別がどんなにひどかつたかは心にやきつけておきたいです。

私はハンセン病の話を知りてハンセン病にかかってしまった方は かなしい思いをしたんだとあらためて思いました。なぜならハンセン病にかかってなくてもかくりされてかかってしまった方も、差別やいじめを受けて、その家族も仕事を急にやめさせられたり、学校に行けなくなるといわれてしまったのはとてもかわいいうて、それを受けた人もかなしい思いをしたと思っております。

そして きもんに思ったことがあてくすりて治ると分かったのに、かくりを50年間も解放してあげなかつたのになんと思ひました。理由はくすりて治ると分かったのに、50年たつてからかくりをやめて、その50年、何をしてきたのになんと思ひました。後世の国からもくすりて治ると言われているのに、もかかわらず、かくりをやめずに50年たつてからかくりをやめたのが、とても きもんに思ひました。

今日の学習でハンセン病のことがよく知れたので、またこのような差別がおこらないように、気をつけたいなと思ひました。

私は、ハンセン病について学習して、初めは「なんだ？この病気」と思っていたけど、学習してみても「ハンセン病について知りたいな」と思いました。体が顔が変形してしまったり、親とはなればなれになってしまったハンセン病の入々はきっと自分が感じたことがないくらいいつか来たと思います。感せんする可能性がすごく低いのに、それも分からず決めつけ、ハンセン病の入がなおっていたとしても社会にもどしてくれず、病とうの中で一生を終えてしまった入がとてもかわいそうで、とても心がいたくなりました。きめつけるのはよくない。人の人権をこわすのもよくない。昔から今もずっとまだ差別は終わっていないと思う。最近では必ず直る薬があることをしりともうれしかた。私は、これからも～と人権について考えていかなければいけない気がした。ハンセン病にこれからかかっても入がいても決して差別しないことをちかいます。牛山嶋さん今日はいそがしい中、私たちのためにハンセン病について教えてくださりありがとうございました。

今日は、ハンセン病について教えてください
ありがとうございます。ぼくは、ハンセ
ン病については療養所にハンセン病にあ
たり入るとか療養所に文句を言ったり
して重監房に入れられるとかしが分が
たが、たけと今日の牛嶋さんが来てく木左が
ハンセン病についてく書く知事が出来まし
た。例えばハンセン病は治しても療養所か
ら出てくれないか薬が出てく療養所か
ら治しても出てく法津は無くなるまでに
は時間がかかるとか知りませんでした。でも
薬が出来たおかげでハンセン病になつてからの不
安とかは減ったと思ひました。そして日本で
のハンセン病になつた人の数も減つてきてく
のもいい事だと思ひました。でもまたハン
セン病がはかて来ても今日の牛嶋さんの話
も来つたのでもしはかて来てもあんしん
です。でもぼくにはまだハンセン病につ
いて知つた事はたくさんありません。百云が

ハンセン病の差別について

私は、ハンセン病の差別のことについて、あまり知らなかったのですが、国が起こした事と聞いて、とてもおどろきました。私は、ハンセン病を知った人がおそれて、考えていたものだと思っていたけれど、ぜんぜんちがってました。

ハンセン病の養育施設について

養育施設なのに、働かされたり、ろう屋に入れられたり、家族の元になくても、帰れないなんて、ひどいあつかいだなと思いました。私がその時代の人だったら、にげ出したいくなります。かいびいんさんがいたり、火そう場があったりお寺があったり、お墓があったりそういう場所でも苦く生きていたんだなと思うと、今、ふつうに生きている自分が、ありがたく感じれました。

後いしょうについて

後いしょうは、寺が変形していたりするそうです。私は正直に言うと、こわいと思っています。なりたくないな大人もかしあ、ってなるので、それをしょう識から消したいです。

今日は、ハンセン病について教えてくださってありがとうございます
います。

私は、ハンセン病のことを勉強するまではよく知らなくて、今
日の学習でよく分かりました。

ハンセン病は、4000年前にもあったなんてびっくりしました。

だけど、ハンセン病の薬ができたのが75年前ということだ。

私はまだ少し最近なんだなと思いました。

薬が出来てハンセン病が治るのはいいけど、それでもずっと
療養所でかくりされるのは、おかしいなと思いました。

療養所の仕事もかんじゃさんがやっているなんでおかし
いなと思いました。

ハンセン病がうごきすぎて悪化するかもしれないしお
かしいなと思いました。

今は療養所は自由だけど前までは自由ではなくて、外にも
出れない生活があったということはなんで自由ではない
んだらうと思いました。

やっぱりハンセン病の人がいても仲よくしたいなと思いま
した。

ぼくは、ハンセン病について何もかも知りなかつたです。ぼくはハンセン病がかかったときの頃の（昔に）昔の世間のたいどはまるかくりなどの方がまづかかったと思ひます。あせう、ははなればなれになる家族の危持ちも知らずやうにいたので、もうちと考へてほいで、その病気自体も持たないで、汗、泣き、吐き、あせうなどが分らないのはとても二おいて、お薬ができてから法律がいせん前での50年の間せうで、医師の考へも分がらけと、やうせんすけきは、かんじの意い、なんじやないのやなど、思ひます。

おと、ハンセン医師がいなれば、もしかしたら、今もきょうせい、かくりが、続くのかなと思ひます。

今でもハンセン病にかかった人について、のつらなと、を、して、い、人は、お、か、し、い、思ひ、ます。ひら、た、あ、た、ん、が、子、供、に、向、け、た、言、は、い、は、い、は、い、ぼくも守りつづけ、これからの人に伝えていきたいと思います。

今日は、この世界のことを少しでも知れたと思
います。私は、授業で習うときも「ハンセン病」
という言葉は、聞いたことがありましたが、ハンセ
ン病はどんな病気か、どうやってうつるのか、
とか、なにも分かりませんでした。でも、授業で、
資料などを、使って、3割くらい知れたと思いま
す。でも今回、牛嶋さんの話して、7割分が、た
ので、ハンセン病の主な説明は、だいたい知れ
たと思います。今日の話を聞いて、これからの生活
の中で、自分たちが、できることなどを、考えたい
と思います。まだまだこの世界には、ハンセン病
のことを知らない人が、たくさんいると思います。
なので、知らない人に、簡単にハンセン病のこと
を説明して、ハンセン病のことを知ってもらい、もし
ハンセン病にかかった人が、身近にいても、「差別
いじめ」など、この人がいやにならないように、まわ
りの人にも、よくハンセン病のことを知ってもら
って、薬で治った人もなおせるということも知って
もらって、「おくり」など、「差別」などが、ない方がいい
です。

ぼくは、ハンセン病問題について学習して思ったことが、3つあります。(疑問点も)

1つ目は、ハンセン病は約4000年前からあったことが疑問点でした。なぜかというとして、らいきんが約4000年前から現在まであるということが不思議だったからで

2つ目は、ハンセン病にかかった人がおくりされて、病気にかかっている人に仕事をさせたしていることを聞いて、あまりにもひどいと思いました。なぜかというとして、おくりされた人は何も悪いことをしていないし、仕事はふつう、健康な人がするのに、病気にかかった人がしているからです。

3つ目は、また、ハンセン病や新型コロナウイルスに似た病気がはやっても、かくりをしたその病気にかかっている人をいじめたりするの、絶対にだめだと思いますなので、人の気持ちを考えて行動をしたいと思いました。

ハンセン病問題について教えていただきありがとうございました。

私は、ハンセン病問題について聞いて、思ったことが感じたこと
は、ハンセン病にあつただけで、ホテルに入れず
人間のふりをして生きるよなと"言われたり、

ほうげんをたくさんはかかれて、しかもいわれて入れば、
元かん者でもうハンセン病が"なおっている人な
のに、自分は、あつたことが"ないからと、たくさ
んほうげんを言っておいたけれど、そのおいたし
た人を、よんでホテルにいれてとでもよかつた。

あと、こけたりうつたりしたアサ"なので、ハンセン病の
始めの赤い点みたいのにみえただけで、まちがって
かくりされたりした。だけどそのまちがで、かくりされてしま
つた今も死ぬまで一生かくりされていた。

いまでもあつている人がいる。など"で私ができることは
小さなことでもいいから差別をしない、いじめない。
と人の心にきずをつけない病気だから元ハンセン病な
らという差をつけたりするのをやめたりする。

そして話を聞いて感じたことは、やはり、もう人として生きている
今、もう思われていなく、元かん者でも仕事を死になつたりする

いまではほとんどの人は、らい菌は、感染力が弱い。など"もう
薬でなおると知っているけど、またおそろしい病気だと思つてい
るにおそろくない。など"の言葉を伝えていきたいと思つた。

ぼくは、茅山鳥さんの話を聞いて
思ったことは、ハンセン病は、今もま
だ差別をされたりしているのによく
思いました。だからぼくは差別を
したりせず差別をしている人には、
注意をします。+ハンセン病は、
今は、治せる薬がめいじと昔は治せなく
ておられるいる病(ツ)じせ病に
かかっているだけで差別をされて、
辛い思いをしたのがよくないです。
昔も昔、ハンセン病がはやっている時に
生きていたら差別していたかも知れな
いです。今だと、ハンセン病は5人ぐら
いがかかっています。今もハンセ
ン病が治っていてもその家族が差別を
されるのはよくないと思しました。昔は、
名前を変えたりしてツよ(書)所の中で
一生暮らさなければいけないのはだめだと思
います。

まず初めに話をきいて思ったことは、ハンセン病で苦しむのではなく、その後の差別で苦しんでいる人が多いということです。ぼくは、その話を聞いてすごくつらくなりました。差別をしていなくても、それを人ごととしてらえるのは差別をしているのと同じことだと思います。差別をすぐになくせるのならなくしたい。でも、すぐにはなくせないと思う。ぼくはいつもそう思っていました。でもそんなあまたるし考えをしているうちにたかさんの命がうばわれ、たかさんの人々の心をふみにじっていた。そう考えると、すぐになくせるかな？じゃなくて、すぐになくす！という考えに変わりました。

ぼくが、この授業をうけて一番、心に残っているのは、何もしていない、もハンセン病にかかっている人たちからしたら、とてもつらいことなんじゃないかなと思ったことです。何もしていない、じゃなくて、差別をなくすという考えにかえたいです。

今日の体験をきっかけに、正しい考えにかえりたいです。

井嶋さん今日は遠い東京
から来てくださってけりがらござ
いました。今日ハンセン病に
いての話聞いてあつたこと
は、ハンセン病という病気自体
そんなにかい病知てもない
のにすぐせりされたりかくりさ
れたりしてひどいことだつた
と思ひました。

私はハンセニ病についての授業をする前までは、ハンセニ病を知らなかったけれど、授業や、今日のお話を聞いて、昔、療養所にかかりされていた方々は、すごく悲しい思いをしていたんだなと思いました。もし私なら、家族とはなれるのがいやで、きつと療養所ではないと思っています。療養所には、1年生くらいの年の子どもいたと思うので、今考え直すと、悲しくて、はやく家にもどりたいという子どもいたんだと思いました。そして、療養所では子どもは、午前中勉強して、午後からは、ごはんを食った後に仕事をさせられるけど、病気を治すために療養所(病院)に来ているのに、それはさすがにきつと思います。そうしていたら、病気が悪化して、亡くなってしまふ人も出てくるので、私は、少しでも家族の近くにいられて、仕事をやめさせてくれた方がいいと考えました。そして、平沢さんの話の動画を見て、今、私たちが楽しく笑いながら遊んだり、ちゃんとした勉強をできている、ごはんをおいしくみんなと食ってもらえるのは、国に、法律を変えてくださいと言ってくれた方々のおかげだと思っています。なので、その方々に感謝して、これからも元気で楽しい生活を送りたいです。

ぼくは、牛嶋さんの話を聞いて、ハンセン病にかかったういじめをさせたりするので、もし友達がかかるといじめられてたら、いじめている人に注意をしたいです。注意をしなかったら、ハンセン病にかかった人が悲しい思いをすることです。昔は薬がなかったから病院で入院するしかなかったけど、子どもを生んではいけないという法律を作るのはだめだと思いました。ハンセン病が流行してホテルにいったらハンセン病にかかった人はだめにしてホテルに泊まれないようにおし電話や手紙で暴言を言ったり書いたりするのはいじめと同じなので電話や手紙で暴言を言ったり書いたりするのは、ぜったいにだめだと同じです。ぼくは、ぜったいに電話や手紙では、暴言を言ったり書いたりするのは、相手が悲くなるのでいけないと思いました。

私は、うしじまさんのお話を聞いて、今でもりょう養
所で暮らしている人がいると聞いてとてもい
くりました。昔はハンセン病が治っても、りょう
養所にいらていて、貧しくて苦しくて悲しい生活をずと
くり返して、私たちみたいに楽しく暮らせているけど、誰
い暮らしを送っている人もあると思、たらとても悲しくなりま
した。ハンセン病にかかった人は、苦しい暮らしを送っているし
ス々から差別を承ていて、それで自さっている人もいる
のどうして差別を承たんだろうと思、ました。ハンセン病はか染
る病気と思、い、りょう養所ですと生活させられて
本当に悲しくなりました。法律で差別をしない
という法律がつくられて本当によかったと思、たけ
ど、ハンセン病がなお、てもりょう養所を出られない
と聞いて、どうしてだろうと思、たけど、うしじまさんの
お話を聞いて、よかったです。とかなるほど、などの感情
ができて、ハンセン病の事がよく分かりました。
最後のどうかで、いはば、送乳でと言、っていたので
今たくさん送乳を承、たいです。今回のお話を聞いて
ハンセン病のいろいろなことが分かりました。

私かもし50年前に生まれていたら、すぐショックをうけていたと思います。理由は、ハンセン病になつたから人間じゃないと思われたり、差別やヘビ見があるからです。ハンセン病は薬で治るし、病気にもなりにくいのに、自分がなるまで分からなくて、そういうことになってしまう人間はさかいと思います。

ハンセン病になつて病気が治つた人も、「けしこできない」子供を産めない家とは遠くはなれてしまうから社会に出ても生きづらくなつて死んでしまう人や、病気が悪化再発しては、またリハビリにもどる人もいます。

けがをしたことに気がつかずいたら、足を切断(手も)しないといけなくなります。

私はこの言舌を聞いて、コロナも、しょうじょうがあるけど、ワクチンもあつたし、薬がなくともなるけど、ハンセン病は、50年前もずっと続いてくるしめつたけど、50年前にあるていどかいほうされたから、私も、気がつくになりました。

今日の話を分かったことは、今もまだ差別はつづいていて日本でも800人以上の人が年れいや不安で社会ふっきできないことや小さくても大きくてもし事をしなければならぬことも分かったしハンセン病にかかった人を夜の場でせくたてもらうために作っていたことが分かりました。思ったことは、どんなひょうきにかかっても社会せきに殺すのはよくないし差別はいけぬことと分かっていても差別してしまうのは、よくないと思いました。あとさいてい^に体や手足などについたきずはなおせるかもしれないけれど心についたきずは一生涯なおせないかもしれないことも学^びました。

ハンセン病の人は療養所に入りたくないのに
入れられて、ハンセン病は大変な病気なことを
知りました。

牛嶋さんから聞かせてもらったお話で今までいろ
いろな人がハンセン病になってしまったことを知り
ました。平沢さんのお話を聞くと、差別をされて
苦しかった事や他にもいろいろハンセン病になって
本当につらかったと思います。

私がハンセン病になったら誰かに相談したい
けどそんな簡単に相談できることではなく、悲しくて、
苦しくて、差別もされて、毎日たえられなくて泣いて
しまっていたと思います。それを我慢してきたハンセ
ン病患者の人は本当にすごいです。

平沢さんが言っていたように、好きな事をすれば
いいと言ってくれて私はとても心に残っています。

今日牛嶋さんが話してくれたからハンセン病につい
てもっとくわしく勉強したりいろいろなことを知り
たいなと思いました。

ハンセン病問題について学習して分かったことは、ハンセン病問題は国が起こした人権問題だと分かりました。思いこみや差別によって、かん者さんたちが苦しい思いをしたと思います。戦争をゆう先したり、環境おせんなどによっても国のあやまちだと分かりました。平沢さんのDVDではりょう養所なのにろうやがあつた。しょうじょうが軽いかん者には仕事をさせたりなど名前とはかけはなれていることをしていることを知ったときは、とてもおどろきました。らり予ほう法がはり止せられても一部のかん者の人たちがりょう養所にまだ残っているのが疑問になつていったけど、理由が分かりました。国はくらしで生きる場所を与えられないからで、医者や、社会でくらすよりもりょう養所にいた方が良し、と言つて、国民はまだ差別や無関心などがまだ起つているということを知りました。世界にもまだハンセン病と戦っている人がたくさんいるので一人一人に知つていくことが大切だと学びました。

今日はハセ病のいびきとあえて
くたさし、ありがたさ、また、お話しでハセ
病にかかた人も、みんなにわたる人権の
いて、自由があるといふことが残りました。
これはハセ病かんにしやをいろいろ理由で差
別をするといふことはとておかしな思いま
た。だて、病気にかかてる人は人間で、人権も
もっているのに、その人権をいかにするかのうに、
してよいこととしてはいけななど、相手を封
つけるようにとをするのは、絶対に許さ
ないことだなどあらためて思いました。それと、ハ
セ病にかかた人は、鼻ができて、しかも、な
おたのに、国は、いろいろな所が出て、いかな
のは法律をつらさ治っているに、おかしな
うよう所に、おかしなといふことが、絶対に
だめなとだなど感じました。これは、国が、い
いと法律のせいせい、はる、三度と、い
うことはしないといふような、差別がおこる
といふことなので、とておかしな思いました。

ぼくは、ハンセン病問題について学習して、分か
ったり思ったりしたことは政府のまちがった法律
が人々の心の中にハンセン病は恐ろしいとい
イメージを植えつけて、それによってハンセン病患者やその
家族への偏見や差別を助長していったことです。

ぼくはハンセン病患者やその患者への偏見や差別
をなくすために個人がハンセン病に関心を持た
り、ハンセン病のことについて理解することができ
るのではないのかなと思います。なのでぼくはこれか
ら、ハンセン病になっていたことがある人がもし友達
にいたとしても、いつものように接することができる
ようにしたいと思いました。

そしてぼくがおかしいと思ったことは、病気が
重い人や目の不自由な人の介護、仕事などを強
制的にさせられたということです。ぼくは療養所で
はなく刑務所のように患者の自由や人権をうばって
いると思いました。今は日本国憲法に基本的人権の
尊重があるので、患者への差別がよくないというこ
分かる人がほとんどですが、そうではない人がいるのでぼくは
一人一人の理解が大切だと思いました。

ぼくは 今日、牛嶋さんの話を聞いて、援業で習ったこと以外に、たくさんのことを知りました。そのうちの一つは、元かん者の方がホテルにとまろうとしたら断られる。事件は知っていたけど、そのせいでそのホテルの会社がつぶれた後に、元かん者さんに悪口や人権に関わる手紙が送られてきたことです。ただ、ホテルにとまろうとしたら、元かん者だという理由だけでホテルにとまれなくて、そのホテルがつぶれてしまふというだけで人権に関わる悪口を手紙に書いて送るのは、おかしいことです。ハンセン病はかかりにくく、かかるとしても薬はできているので死ぬわけではないので、それを知っていても差別をするのはよくないです。他には、ハンセンという人が見つけた病気をからハンセン病とよばれているけれど、それは江戸後期～明治前期の間に発見したことです。ハンセンという人が見つけた病気をからハンセン病とよんでいるのは、知っていたけど、いつ発見したのかは知らなかったものでよく勉強になりました。

私は今日初めて、ハンセン病が4000年以上前からあるということを知りました。その頃はまだ、かくりされてはいなかったかもしれないけれど、そんなに昔からハンセン病で苦しんでいる人がいたというのは、悲しいことだと思いました。無らい景運動が始まって、たくさんの方が連れて行かれているのを見るのは、きつと怖かたと思うし、そんな運動があったから、「ハンセン病は怖くておそろしい病氣」という考えが広まってしまったんだと思います。

ハンセン病にかかった人は家族と話すこともできず、強制的にりょう養所に連れて行かれるのは、おかしいことだと思います。元ハンセン病かん者の方がホテルにとまれなくて、その人達にとどいた手紙を見ていると、自分もつらい気持ちになりました。ハンセン病のかん者が悪いのではなく、自分が怖いからといって差別してしまうほうが、よっぽどいけないことだと思いました。昔はハンセン病に対して、国が法律をつくらなかつたから差別なとか起つてしまつたかもしれないけれど、今でも差別やへんけんが怖くてりょう養所から出ることができない人がいるのは、まだまだハンセン病問題が解決してないからだと思いました。

らい予防法はひどい法律だなと思いました。ハンセン病はとても感染力が弱いのに、かくりをして病気が治っても療養所にとじこめるなんてとてもひどいなと思いました。しかも病院にろう屋があってハンセン病に感染しただけでそこに入れられたり、療養所といいながら患者さんを働かせたりして患者さんほそれだけでも悲しくてうらいのに「家族とはなればなれになる」「差別をされるから名前も変えなければならぬ」などととても苦しくて、悲しかったらうなと思いました。ハンセン病についての差別は国民だけが悪いのではなくて、国も悪いんじゃないかなと思います。最初は一部の人だけが差別をしていてその差別を反対している人がいたかもしれないのに、国がらい予防法などハンセン病がこわく感じる法律をつくって「ハンセン病はおそろしい」というイメージを持たせて差別が始まったということもあったかもしれないから国も悪いと思います。他にもハンセン病が治っても療養所から出られなかったりして困っている人がいるのにそのままにしていたりしたこともあったと思うので、もう少し適切な判断をできたんじゃないかなと思います。今回、お話ししていただいたことを家族に

らい予防法は、ハンセン病患者の人から多くのものをうばった。家族の争いやハンセン病にかかる前の生活、人権など、家族の誰かがハンセン病にかかっただけで、周りに差別され、学校からは学校に来なくていいとも言われた。間違えた法律のせいとせけん間違えた考えが広まった。そのせいで病気にかかると人が悪い、こわいななどという印象が広まった。政府も医者もかくりされていることを、おかしい間違っていると思わなかった。薬が開発されたにもかかわらず政策は終わらなかった。本当にこわいのは病気でもかかるともなく病気にかかると人を差別する心を持った人間だ。患者さんが患者さんのお世話をしているのはおかしいと思った。他の人と外見が少しちがうからといって差別するのは違うと思う。人はみんな人間らしく生きる権利を持っている。今日本ではハンセン病患者の人はほとんどいないけど、世界にはたくさんいる。も、とハンセン病のことを知りたかったと思っ

私は牛嶋さんの話を聞いて、ハンセン病は約4000年前からあって感染すると、
よう養所に強制的に行かなければならない。治しても一生よう養所から出れないとい
た人権が守られていないな、と思いました。
改めて人権とは何?と聞かれると難しかった
けれど、人権とは、元々か生まれながらも、ていて、
人間か人間らしく生きる権利、ということが分かりました。

差別は決してしてはいけないもので、差別を私た
ちがしないことから、ハンセン病患者の人たちの苦しみは
少しだけでも減ることをねがっています。そして、私たちの身の
まわりの人や大人になって子どもができた方、子どもにもハ
ンセン病差別のおそろしさを分かってもらえたらいいな
と思いました。牛嶋さんの話を聞いて、もとハ
ンセン病について調べてみたいな、五年生
や四年生にも伝えて分かってもらえたら
うれしいなと思いました。このハンセン病
のお話を聞いたことはわすれないように
頭をかたすみににおいておこうと思います。

ぼくが今日のハンセン病問題について学習して
学んだことは、国が誤って判断をしていても
自分がおかしいと思っても法律で決めら
れていたから、むきみに反論はできないけ
ど、いやらしく差別したり、いじめるのが一番
よくないと思います。今でも後いこうで苦
しんでいる人もいるだろうし、それにたまたまかけ
るように、それをからかたりしたら、その人の
基本的人権の尊厳が守られてないと思っ
ます。お話の中にあたように、ハンセン病
に対しての判断が誤った事をあやまった
のにもお詫言わずホテル側がハンセン病
元患者だとわかったらキャンセルして、そして
周りの人がらひどい事を言われせかく社
会から帰したのにそんなことをされるのは、まだハン
セン病に対してのまじがった考え方が残って
いるのは、悲しかったです。これからは、牛嶋さん
が教えてくれたことを生かして、ハンセン病だけで
はなくいろいろなことでも差別しない山になりたい
です。

牛嶋さんのお話を聞き今でも差別が残っていてハンセン病の感.せん者が生きにくい世の中であることを知りました。2003年のホテルでの事件で、かかりたくてかかっているわけがないのに、もう病気はなおしているのに泊まるのをダメと言われたのはおかしいと思いました。でもその人達とホテルの人達は仲なおりしたのに、手紙や電話で久間じやないや「入権なんてない」「死ぬ」などを言っていてそんな差別を無くしたい。と思いました。最後に田中さんが言っていたことで私達に出来ることは差別をしないことや差別を無くすこと。と言っていてこんなことしかできないけど、それで入所者が少しでも楽に過ごせるようにしようと思いました。今日学んだことを生かしてハンセン病以外に病気が出てきても、差別をせず差別をする人にそれは間違っているよ、病気が怖いんじゃないよ、と声をかけ差別を無くしていきたいです。そして体が変形したり不自由な人を見かけたら助けようと思いました。そんな優しい人がたくさんいたらいいなとも思いました。

牛山鳥叔の言葉を聞いていた大きな事が分かりました。

ハンセン病という事はホテルでとま本なかうたり差別を受けたりしておかしいなと思いました。

療養所に入れられた人は名前をかえられりあるのが分かりました。ハンセン病は今体はかかる割合は低いけど外国はまだハンセン病にかかるのが多いとなっていたので気を付けてほしいです。

平沢さんの話を聞いて分かった事はハンセン病にならなうりいのが分かりました。

私は今日一番びくりましたことがあってそれは、4000年前からハンセン病があったのは知らなかったし、そんなに前からあったのはびっくりしました。昔は、ハンセン病の治療方がなかったけど、今はもう治療方があるから少し安心だけど、やはり怖いのは少し分かりました。たしかに差別をしてもいいという理由にはならないので、差別はやめた方がいいと思いました。

私は病院にいるのに重労働をさせられているのはやめた方がいいと思いました。病気の人にはふつうベットで休んでいる方がいいのに、重労働をすることは、何の病気でもない人でもつらいことを病人にさせるのは、よほどつらいと思います。たしかに、今は、ふつうの重労働のない病院になっているらしいので、よかったと思うし、病気の人でも安心してすごすことができていると思うので、よかったです。

先、ハンセン病の人などが起こした裁判に勝ったのは、すごいし、いいことだと思っています。そんな裁判がなかったら、今でもつらい思いをしている人が多いと思うので、この裁判があってよかったです。この裁判でハンセン病についての法律が見直されたのでよかったです。と思いました。

私は、牛じまさんの話を聞いて、国や国民は、ハンセン病患者の人たちに対して、ひどいことをしてきたんだなと思いました。国は、かくりせいさくをして、ハンセン病がん者をかくりしたり、ハンセン病に対する悪いイメージをもたせたりして差別やひどい言葉をあびせかけて国民の中では、へんけんが起きている、それはおかしいんじゃないかなと思いました。それだけではなく、ハンセン病患者の人は、自由をうばわれたり、一人の人間とあつかわれたり、家族までが差別をうけたりしていたことを知って、どうしてそのことを冷静に受け入れなかったのかなと思いました。もし私の身の回りで、だれかが病気になっても、その病気はうつらないなどの理解をして、「おたごいじに。」の気持ち大切に、みんなと助け合っていきたいです。